

～ タイムリーな情報を、いち早く皆様にお知らせします ～

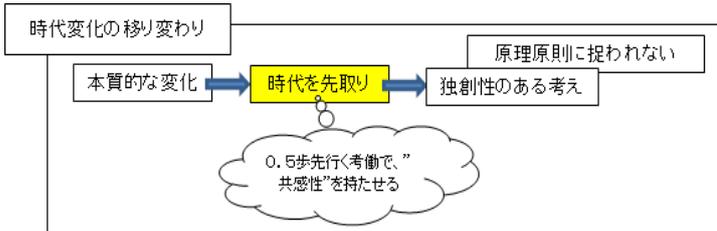
◆第32回 西山経営革新塾

1. 時代の移り変わり

1) **本質が変わる** 本質の変化が起こっている現代では既成概念が通用しません。表面的な変化はしているものの、本質的な変化の方が大きく、この時代で生き残るには“時代を先取りする”ことが求められます。

2) **時代を先取りする** これは基本的には0.5歩前に行く考働のことを示しています。1歩では先に行きすぎて、周りが理解出来ず孤立してしまいます。考働は0.5歩先であるが、イメージでは1歩、2歩先に行く必要があります。既成概念に捉われず、考え方の独創性が不可欠です。

3) **独創的な考え方とは** “共感性”がないとビジネス社会では存在出来ません。この裏には悪趣味があり、この考え方が経営には必要となります。これが7：2：1原則の“2：1”にあたり、独創的な考えは「思考の開始」が必要となります。“考えの自由度（視野の幅）”を大きく持てるか、“考える面白さ”を持たせるかで変わります。



2. 現代の経営

1) **近欲と遠欲の同時並行** 現在のほとんどの企業は近欲（目の利益）で動いているため、体質の変化を好まない場合が多いです。しかし近欲で考働し、遠欲で考えることが求められます。

2) **現代企業に不可欠人財：多重人財** 現代は「近欲」「遠欲」の他に、「多重人財」が必要です。多重人財の組織をつくるには、IPrが必要となります。多重人財をいかに育成するか、IPrにいかにか多重人財を活かさせるかが課題です。

《**多重人財の特性**》 人からの評価を気にしていない。一人でも理解・評価している人があれば満足できる。

2) **経営者と起業家** 「経営をすること」と「事業をすること」は異なります。経営者は「利益を出す」、「コストを下げる」「社会と共生する」ことをしつつ、矛盾を調節しながらの経営が求められます。起業家は矛盾を乗り越え、どんな状況であっても事業を成功させることが求められます。

つまり、経営者は“調和力”、起業家は“発想力”が必要であり、時代を創造するのは“起業家”の方です。また起業家は“顔”であり、経営者は“裏方”とも言えます。

◆LED用いた鮮度維持装置

(株)タカトリ（本社：奈良県）は可視光LEDと光触媒を用いて果物などの生鮮食品の鮮度を保てる「鮮度維持装置」を開発した。冷蔵庫などの民生機器や冷凍コンテナなどの物流システム向けに事業化を進める考えだ。



徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部と共同開発した。装置は可視光および紫外のLEDパッケージを搭載したハイブリッドLEDシステム、金属板に光触媒を塗布した光触媒シート、阿波製紙製の放熱フィン、空気循環システムなどで構成される。可視光LEDで光触媒を活性化して、生鮮食品から発生する腐食性ガスを分解しつつ、紫外LEDで殺菌効果を付与した。試作機には7個×7列のLEDパッケージを装置の上下と背面に設置した。この装置でバナナの表皮の変化を観察したところ、外に放置した場合と比較して黒ずみの進行を大幅に抑制できることが分かった。（「半導体産業新聞」2013.11.20より）



◆映画「絆～庵治石の味」がDVDに

世界の銘石とうたわれる、この素晴らしい伝統をテーマにした珠玉の人間ドラマが誕生。高松の美しい風景をバックに感動的に描く映画になりました。この作品のDVDが、TSUTAYAにてレンタル開始、楽天にて販売しております。詳しくは公式サイト



<http://www.ajimovie.com/> をご覧ください。

◆目的レベル

仕事の出来る、いや役割の果たせる人財は、「目的を果たす最適考働」とは何かを置かれている状況のあらゆる視点から考えます。この中で最も重要なのが「目的の設定」です。目的のレベルが低ければ、求める人は不満だし、高いと考働が難しくなります。（西山）

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ